

活動資金募集にご協力いただく皆さまへ

令和4年度

# 赤十字活動資金募集の手引き

～赤十字は「救うことを託されている」団体です～

赤十字の活動につきましては、日頃から自治会・町内会をはじめ赤十字奉仕団員等の県民の皆さま方に温かいご支援とご協力を賜りまして、心から御礼を申し上げます。

日本赤十字社は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を果たすべく、災害救護を柱として、看護師の養成、救急法等の講習、ボランティアの養成、青少年赤十字の育成、国際支援活動などを展開しています。

今なお世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症が確認されてから2年余りが経ち、日本赤十字社は、その当初から、新型コロナ感染症との闘いに、社の総力を傾注してきました。

また、昨年も各地で豪雨災害が発生し、感染症のまん延下での救護活動という、これまでに経験のない課題にも取り組んでまいりました。あわせて、多発化・多様化する自然災害発生時における救護活動の備えとして、コロナ感染対策用防護服や救護資機材、救援物資を整備するなど、皆さまのいのちと健康を守る活動を積極的に取り組んでいるところです。

このような赤十字事業を安定的に継続していくためには、活動資金の確保が肝要であり、その財源の基盤となる寄付者（会員）の方々を一人でも多く増やしていく必要があります。日本赤十字社茨城県支部では、令和4年度も赤十字会員増強運動の実施にかかる活動資金へのご協力をお願いさせていただきます。

本運動の実施にあたりましては、自治会・町内会等の役員や赤十字奉仕団員等の皆さま方に「活動資金募集協力員」として、例年、ご尽力をいただいているところであり改めて感謝申し上げます。今後もいのちと健康を守る赤十字活動を実施するため、本運動の趣旨をご理解いただき、感染対策には十分ご留意されまして、本年度も引き続き、お力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和4年4月

日本赤十字社茨城県支部

## 1 活動資金募集の進め方（次の点に十分ご注意ください）

### （1）新型コロナウイルス感染症の主な対策

#### ア 感染予防

- ・発熱（37.5 度以上）や咳などの風邪症状がある場合は訪問を休止してください。
- ・3密（※）の回避、マスクの着用、手洗い・うがいを励行し、寄付者とのコミュニケーションは必要最小限としてください。（※）密閉空間、密集場所、密接場面

#### イ 活動資金の募集時期

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、事前に市町村役場（社会福祉課など）の赤十字担当者と連携・調整したうえで、例年の募集時期にとらわれることなく地域の実情に応じて活動資金募集をお願いします。（遅くとも年内終了を目途としてください。）

### （2）協力方法の異なる募集

#### ア 各世帯からご協力いただく場合

- ・ご協力いただく金額は、500 円を目安にお願いしていますが、協力は**強制ではなくあくまでもご本人様の自由意思**であり協力金額も自由です。募集の際は、**強制感を持たれることがないよう**ご配慮願います。
- ・募集で知り得た個人情報、**他人に漏らさないよう**厳守願います。
- ・2,000 円以上のご協力者には、「会員」への登録についてご確認いただき、領収書発行の際に「希望します」「希望しません」のいずれかにレ点を記入願います。

また、会員登録を希望される方は、「住所」欄も必ず記入願います。

#### イ 町内会費などから一括してご協力いただく場合

- ・各世帯の皆さまが、赤十字に対し資金協力することについてご了承いただいたうえで、ご協力くださいますようご配慮願います。

## 2 募集用資材 ※市町村によっては、一部使用しない資材もございます。

### （1）チラシ（A3サイズの2つ折り）

- ・多くの皆さまに赤十字へのご理解とご協力をいただけるよう、各世帯にチラシを配布（または回覧）願います。

### （2）活動資金募集協力員ワッペン

- ・活動資金協力員の方は、赤十字運動の実施者（協力員）であることを明確にするため、ワッペンを必ず着用願います。

### （3）領収書（3枚で1組）

- ・「年月日」「金額」「お名前」「ふりがな」を必ず記入願います。また、寄付協力者には領収書の3枚目をお渡し願います。（領収書の1・2枚目は、切り離さないでください。）

### 個人でのご協力の場合

### 記入例

の部分をご記入願います。

令和4年度	赤十字活動資金領収書	(市町村保存用)
令和4年5月1日		
金額	500	円
ただし、赤十字活動資金として ※金額は、1世帯あたり500円を目安にお願いしていますが、強制するものではありません。		
ふりがな お名前	にっせき たろう 様	
※個人でのご協力の場合は、お名前をご記入ください。 ※町内会や班などで一括でのご協力の場合は、町内会名などの名称をご記入ください。		
《2,000円以上のご協力をいただいた個人の方》 「会員」への登録を希望しますか。□にレ点をおつけください。 <input type="checkbox"/> 希望します ・ <input type="checkbox"/> 希望しません		
〈上記で <input type="checkbox"/> 希望します とした方のみ住所を記入〉 住所		
ご協力誠にありがとうございました。 活動資金は、災害救護や救急法等講習の開催など、人のいのちと健康を守る赤十字活動に充てさせていただきます。		

※こちらの様式と異なる領収書をご使用している場合、または、記入方法等が分からない場合は、お住まいの市町村役場（社会福祉課など）の赤十字窓口にお問い合わせ願います。

※国会議員、地方公共団体の長、議会の議員（候補者含む）に対する活動資金募集の取り扱い

- ・ご本人が「2,000 円」を協力し、かつ、「会員」に登録する場合のみ、問題ありません。
- ・次の場合は、公職選挙法で禁止されている寄附行為に該当しますので、ご注意願います。  
①ご本人が「2,000 円」を協力、かつ、「会員に登録しない」場合  
②ご本人が「2,001 円以上」、または、「1,999 円以下」を協力の場合  
※ご家族の方が協力の場合は、制限はありません。

### 3 活動資金募集終了後の手続き

- ・活動資金募集の終了後、速やかに次の物品等を市町村役場（社会福祉課など）の赤十字窓口にお返し願います。

- ①受領した活動資金
- ②領収書（控）及び未使用の領収書全て
- ③その他募集用資材（チラシなど）の残り

### 4 税制上の優遇措置

- ・日本赤十字社への活動資金協力は、金額等により所得税などの優遇措置が受けられます。  
※詳細は、所轄の税務署等にお問い合わせいただくようお願いいたします。

### 5 表彰制度

- ・活動資金の協力額により、日本赤十字社や国からの表彰が受けられます。  
※詳細は、日本赤十字社茨城県支部にお問い合わせいただくようお願いいたします。（電話：029-241-4516 担当窓口：組織振興課 振興係）

### 【赤十字についてよくある質問】



アンリー・デュナン

#### 問1 なぜ5月に「赤十字運動月間」を実施するのですか？

答1 5月は赤十字にゆかりの深い月だからです。

- ・5月1日：日本赤十字社創立記念日（1877年）
- ・5月5日：国際赤十字・赤新月社連盟創立記念日（1919年）
- ・5月8日：赤十字の創始者アンリー・デュナンの生誕記念日（1928年）

日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたい」という、いつの時代も変わることのない想いを胸に、1888年の磐梯山噴火で初めて災害救護を行ってから長きにわたり、救護活動を実施してきました。

災害・紛争・感染症等で失われるいのちを守り、また、社会のニーズの変化や地域の期待に沿った活動などを展開していくためには多くの方々の理解と協力を得て、寄付者（会員）の増強を図る必要があることから、赤十字の理念や活動への理解とそのご支援を呼びかけることを目的に、5月を「赤十字運動月間」として全国で展開しています。

なお、令和4年度の赤十字運動月間は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、5月にとらわれることなく地域の実情に応じて活動資金の募集にご協力いただきたくお願い申し上げます。

#### 問2 なぜ活動資金の募集に自治会・町内会等の役員や赤十字奉仕団員などの方が来るのですか？

答2 日本赤十字社の業務は、日本赤十字社自身の力によるだけのものでなく、多くの関係者の奉仕的協力によって遂行されております。

赤十字事業の推進については、市町村の多大なご支援・ご協力なくしては成し得ません。また、赤十字の活動は、各地域で実施されることから、地域の方々に支えていただけるようご協力をお願いしています。

日本赤十字社職員も訪問活動等を通して活動資金のご協力をお願いしておりますが、県内全域を戸別訪問させていただくことは困難であり、自治会・町内会等の方々にご協力をお願いしております。

なお、自治会・町内会等にて募集していただいた活動資金の一部は、各市町村役場における赤十字活動（例：避難所で必要な救護資機材の整備など）にも充てさせていただいております。

**問3** 活動資金は災害救護活動などの赤十字活動に充てられるとのことから、直接地域への見返りがないように思われますが？

**答3** 見返りという意味での事業は行っていないですが、各市町村の赤十字活動にも充てさせていただいております。

募集協力いただいた活動資金の一部は、市町村における赤十字活動（救援物資の備蓄、防災啓発セミナーの開催など）にも活用させていただいております。

**【災害時の活動】**

- ・被災地等に医療チームを派遣し、被災された方への医療救護
- ・被災された方への救援物資（布団セット、毛布、ブルーシートなど）の配布
- ・避難所で生活される方などへの炊き出し など

**【災害時以外の活動】**

- ・県内の全市町村に救援物資を配備し、住居の火災等の被害にあわれたご家庭に配布
- ・幼稚園児から小・中・高等学校の児童生徒、大人までそれぞれの対象に応じた防災教育、防災セミナー、救急法等の講習 など

**問4** 500円を目安に活動資金協力を依頼するのはなぜですか？

**答4** 災害救護などの活動を継続的に実施するために、500円を目安としたご協力をお願いしております。

特に近年の災害は、多様化、甚大化の傾向にあり、日本赤十字社はいつでも対応できるよう、常に安定的かつ継続的に実施することが求められていることから、これらに要する財源についても安定的に確保すること必要となります。

そこで県民の皆さまへは、日本赤十字社の活動にご賛同いただけるようお願いし、1世帯あたり500円を目安とした活動資金のご協力をお願いしております。

ただし、活動資金は寄付であることから、協力そのものも自由意志に基づくもので強制ではありません。また、協力額についてもあくまで目安としてご提示しているもので、その額が500円未満でも500円以上でも日本赤十字社の活動として大切に充てさせていただきます。

**問5** 「会員」になると、毎年活動資金を納めなければならないのですか？  
また、特典などがあるのですか？

**答5** 活動資金へのご協力は、強制的なものではありません。

赤十字活動は継続的に行う事業であるため、会員の皆さまからの継続的なご支援をお願いしています。

なお、会員の方には、広報紙を送付させていただき、日本赤十字社の行う活動の情報を提供いたします。

また、会員への加入や退会はご本人の自由意思によりいつでもできます。

**問6** 日本赤十字社は国の機関ですか？

また、日本赤十字社と共同募金会（赤い羽根）は、同じ組織ですか？

**答6** 日本赤十字社は民間の団体です。

また、共同募金会（赤い羽根）とは別組織です。

日本赤十字社は、政府の機関と思われる方もいらっしゃいますが、「日本赤十字社法」という法律に基づいた認可法人です。災害救助法、国民保護法の定めるところにより、行政が行う非常災害時等の救護業務に協力することが義務付けられており、指定公共機関として、その補完的役割を果たすべき分野を幅広く持っている公共性の高い団体です。

また、共同募金会は、「社会福祉法」に基づき設立された団体であり、日本赤十字社とは別組織となります。

**問7** 義援金の拠出の申し出があった場合、どのように対応すれば良いですか？

**答7** 自治会・町内会における募集では、義援金のお取扱いはいたしません。

市町村役場（社会福祉課など）の赤十字窓口への持参をご案内ください。



# ～茨城県支部の主な活動紹介～

日本赤十字社茨城県支部は、  
県民の皆さまからの活動資金を財源として、  
「人間のいのちと健康」を守るため、  
さまざまな事業を展開しています。

## 災害救護活動の充実・強化

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字本来の使命に基づく最も重要な活動です。

当支部は、創立以来、救護活動に取り組み、以下のような災害現場に、医療チームなどを派遣して、被災者に寄り添った活動を展開してまいりました。

### ● 近年の主な災害

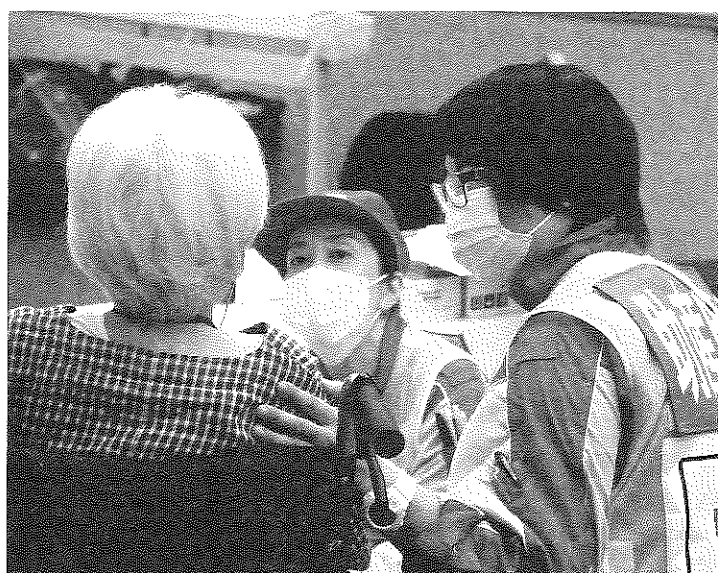
- ・令和元年台風第15号災害
- ・令和元年台風第19号災害
- ・令和2年7月豪雨災害
- ・令和3年台風第9号等大雨災害
- ・令和3年長野県茅野市土石流災害 など

また、日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症への対応として、クルーズ船への救護班の派遣をはじめ、赤十字病院での感染者の治療のほか、感染拡大防止のための情報発信にも努めてまいりました。

日本赤十字社は、今後、発生が危惧されている南海トラフ地震や首都直下地震等の大規模災害などに備え、災害対応能力と救護体制の強化のため、医療チームの訓練・研修を実施するとともに、救護活動に必要な資機材等の充実も図っています。



新型コロナウイルス感染者に対応する医療スタッフ  
©Atsushi Shibuya / JRCS



避難者の健康相談を行う日赤職員

## 災害救援物資の備蓄

大規模災害等に備え、皆さまからお寄せいただく活動資金を財源として、被災者に配布する災害救援物資を整備し、当支部や県内全市町村に備蓄しています。

### ● 災害救援物資の備蓄状況

品 名	備蓄数	品 名	備蓄数
毛 布	14,903枚	布 団 セ ッ ト	689組
タオルケット	4,489枚	安 眠 セ ッ ト	503組
保 温 マ ッ ト	870枚	ブ ル ー シ ー ト	1,389枚
緊 急 セ ッ ト	1,453組		

令和3年12月末現在



緊急セット（日用品のセット）

## 救急法等の講習

救急法、水上安全法、健康生活支援講習、幼児安全法の4つの赤十字講習を開催しています。

本事業は、人間のいのちと健康を守るための応急手当や介護の方法などの知識や技術を広めるとともに、県民のだれもが赤十字に直接触れることができる事業であります。

市町村や事業所などが開催する救急法等の講習に協力するとともに、イベントや防災訓練などで救急法等を紹介し、体験を通じて赤十字を身近に感じてもらえるよう努めています。

コロナ禍であっても、「いのちと健康を守る知識と技術」の普及は重要な社会課題であることから、当支部では、感染予防に配慮した講習やオンラインを活用した講習を実施しています。



オンラインで救急法講習を実演する日赤指導員



オンラインでペットボトルを用いて心肺蘇生を学ぶ親子

### ● 令和4年度 開催計画

講習名	回 数	人 数
救 急 法	338回	15,630人
水 上 安 全 法	32回	1,125人
健康生活支援講習	19回	490人
幼 児 安 全 法	91回	2,760人
合 計	480回	20,005人



# ボランティアの養成

赤十字奉仕団は、大きく3種類の奉仕団で構成されており、それぞれの特性などを活かしたボランティア活動を行っています。

当支部では、さまざまな研修を通してボランティアを養成するとともに、人道的な活動を実践しています。

また、災害時は防災ボランティアリーダーが中心となり活動します。

## ● 赤十字奉仕団の種類

- ・地域奉仕団：地域に根付いた活動を行います。
- ・特殊奉仕団：特殊な技能（アマチュア無線、看護師免許など）を活かした活動を行います。
- ・青年奉仕団：学生や社会人が若さを生かした活動を行います。

## ● 赤十字奉仕団の活動事例

- ・活動資金や義援金の募集
- ・献血の協力呼びかけ
- ・授乳ボランティア
- ・高齢者支援
- ・災害時の被災地での炊き出し
- ・災害時の救援物資の輸送 など

## ● 赤十字ボランティアの登録状況

赤十字ボランティア	人 数
地 域 奉 仕 団	42 団 6,911 人
特 殊 奉 仕 団	8 団 785 人
青 年 奉 仕 団	3 団 73 人
防災ボランティアリーダー	5 人
防災ボランティア地区リーダー	43 人
合 計	7,817 人

令和3年12月末現在



募金活動を行う日赤ボランティア



防災訓練を行う日赤ボランティア

# 青少年赤十字の育成

青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という3つの実践目標を掲げ、児童・生徒が「生きる力」「豊かなこころ」を養い、「人道」という赤十字精神に基づき、日常生活の実践活動を通じて、世界平和と人類の福祉に貢献できる人間を育成することを目的として、各学校単位で地域の清掃、環境美化活動、あいさつ運動、募金活動などを行っています。

また、2022年は、青少年赤十字が創設100周年を迎え、支部や各学校で様々な記念事業を展開します。

## ● 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」

- ・近年相次ぐ自然災害から得た教訓を児童・生徒に伝え、学校、地域、家庭における防災意識の向上を目指す防災教育プログラムです。

## ● 防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」

- ・幼稚園・保育所の子どもたちに災害時の危険（場所・行動）について伝え、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうことを目指した防災教材です。



防災教材で災害時の危険を学ぶ園児  
(大子町立大子幼稚園)

## ● 青少年赤十字への加盟状況

種 別	加盟校(園)数
幼 稚 園・保 育 園	8 園
小 学 校	161 校
中 学 校	99 校
高 等 学 校	75 校
特 別 支 援 学 校	2 校
合 計	345 校

令和3年12月末現在

# 国際支援活動

日本赤十字社は、世界に192社（令和3年12月現在）ある国際赤十字の一員として、海外の自然災害及び紛争による被災者の緊急援助をはじめ、発展途上国の開発援助を積極的に行っています。

## ● 実施事業

- ・海外赤十字社が実施する保健医療支援事業等への資金援助（医療従事者の不足や不衛生状態が続く地域への支援）
- ・NHK海外たすけあい募金キャンペーン（実施期間：12月1日～12月25日）  
（目的：紛争や災害、感染症などの病気で苦しむ世界各地の人々を支援）

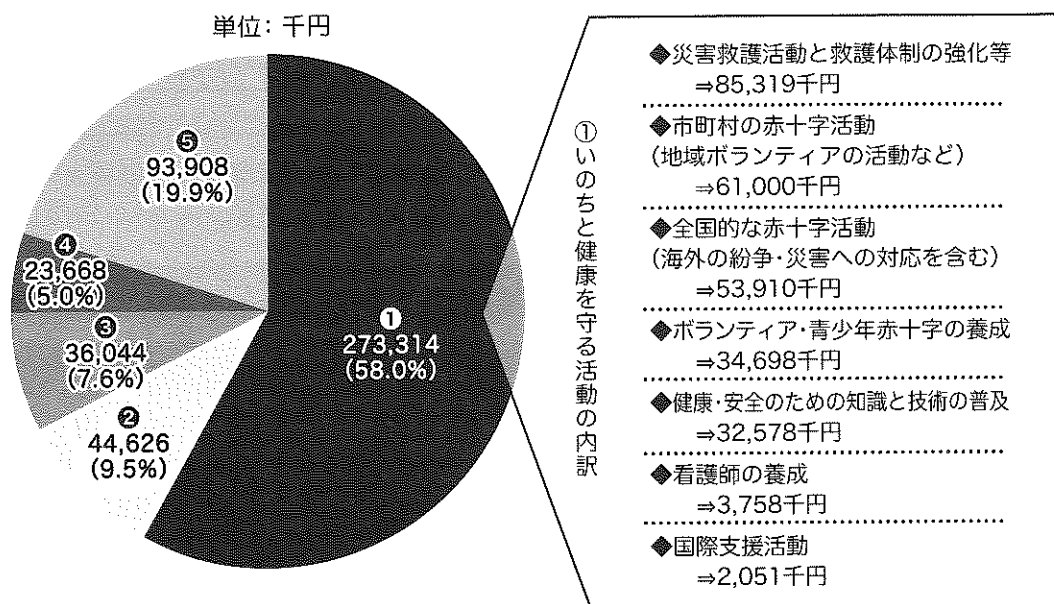


公衆衛生活動を行う日赤職員

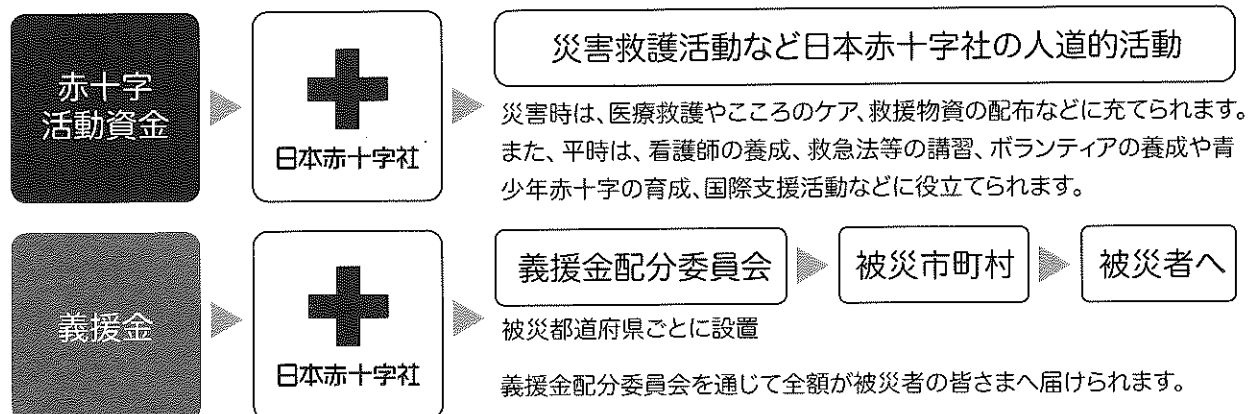
令和4年度 日本赤十字社茨城県支部  
活動資金(寄付)の使いみち

総額:471,560千円

- ①いのちと健康を守る活動のため
- ②災害救護関連施設等の維持管理のため
- ③活動資金募集のため
- ④活動報告や情報発信などのため
- ⑤活動の運営管理のため  
(国内の災害に対する対応を含む)



赤十字活動資金と義援金のちがい



[問い合わせ先]

ご不明な点はお住まいの市町村役場（社会福祉課など）の赤十字窓口、または日本赤十字社茨城県支部までお願いいたします。

日本赤十字社茨城県支部 組織振興課 振興係  
電話 029-241-4516/FAX 029-241-4714